

平成 24 年度後期米国ワシントン大学短期英語プログラム報告書

北海道教育大学函館校

人間発達専攻 2 年

畑中理奈

1. プログラムで受講した授業について

授業は、リスニングとスピーキングを中心に行うものでした。初日にテキストが配付されましたが、それを使用する場面はとても少なく、ペアやグループになってディスカッションをすることがほとんどでした。また講義のまとめとして、最後にプレゼンテーションを行いました。各グループに分かれてテーマを決め、質問を考え、実際に現地の方にインタビューをした後、その結果を分析し、まとめました。インタビューの際は、多くの方が快く対応してくれました。私たちのグループは食をテーマにし、インタビューの結果をもとに日本の食生活とアメリカの食生活を比較しました。また、食に関する一般的なデータを収集する時や、パワーポイントの作成の際は大学のパソコンを使用することができました。どんな活動も最初は一苦労ですが、次第に慣れていき、楽しむことができました。

2. ワシントン大学での生活体験

大学は敷地がとても広く、最初は講義が行われる建物に行くことでさえも苦労しました。大学内には図書館や博物館など様々な施設があり、近くには飲食店や本屋などもありました。日本のお店もあり、ここには日本を象徴する商品が売られていました。

また、ワシントン大学には日本からの留学生も多く、現地で知り合った日本人留学生を通して、外国の方とも交流することができました。外国の方はとても社交的で日本の言語や文化について、興味を持って話を聞いてくれます。異なる文化をもつ人々との交流は、様々なことに気付かされました。



ワシントン大学内と
その近辺のお店

←音楽塔



図書館→



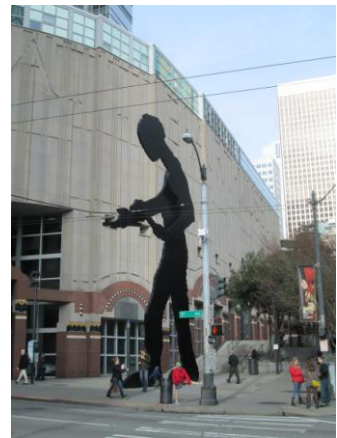
3.シアトルの都市の様子

シアトルは綺麗な建物が多く、優しい人ばかりなのでとても魅力的でした。道に迷っても、尋ねるとみんな親切に教えてくれるので安心して出かけることができました。

また、シアトルはスターバックス・コーヒーの発祥の地であり、パイク・プレイス・マーケットの近くには1号店があります。街の中にはローカルのコーヒーチェーンや個性的なカフェも多く見られました。私のホストファミリーもそうでしたが、大きなコーヒータンブラーを持って歩く人の姿をよく見かけました。

シアトルには観光スポットがたくさんあったので、訪れることで毎日楽しく過ごすことができました。

観光スポット



↑シアトル美術館



スターバックス
コーヒー1号店 ←



スペース・ニードル
(展望台) →



4. 次回の参加者に伝えたいこと

このプログラムを通して、私は本当に有意義な3週間を過ごすことができたと感じています。英語の音声やスピードに慣れ親しむことができたのもそうですが、日本とアメリカの文化や習慣の違いに気付いたり、様々な人たちと話すことによって、世界観が広がりました。

自分から積極的に英語を話そうとすると、どんな人でも一生懸命聞き取ろうとしてくれます。ホストファミリーとも最初は上手く会話ができず戸惑いましたが、諦めずに話していくと徐々に慣れていき、最後にはお互いの将来の夢について話し合うことができました。

留学をするにあたって不安な点が多くあるとは思いますが、現地でもたくさんの人たちが支えてくれるので、すぐに解消されると思います。

このプログラムへの参加を考えている方や迷っている方は、是非参加してほしいと思います。必ず価値のある経験になります。